

魅力発信！えひめ農業NOW

令和4年 12 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、12 月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564



<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

【目次】

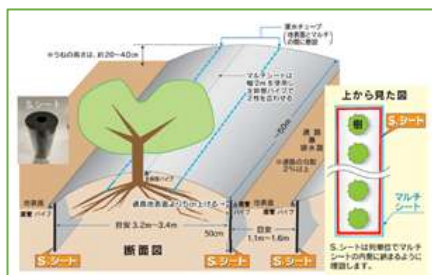
【目次】	1
【月のトピックス5選】	3
農業法人が女性農業者の労働環境改善に取り組む	3
かんきつS. マルチ実証ほ設置に向け現地検討会を開催	3
自作装置でハウス内気温を適正管理	4
儲かる農業に向け新規就農者をサポート	4
軽労働化に向けアシストスーツと電動農機具を体験	5
【えひめ農業NOW】	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
認定農業者等が農政局と意見交換	6
ふるさと小包「土のめぐみ・冬便」発送支援	6
女性農業者の育児と農作業をサポート	7
SNSを活用した情報発信研修会を開催	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
地域特産さといもを身近に～食文化を伝える～	8
地産地消と食文化伝承の活動を支援	8
■東予地方局 産地戦略推進室	9
実需者ニーズに対応した花木の出荷を開始	9
■今治支局 地域農業育成室	9
今治地区魅力発信活動(媛かぐや編)を開催	9
サル対策にクラウドカメラでリモート監視	10
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	10
夏季レモン生産技術の普及を目指して	10
■今治支局 産地戦略推進室	11
業務用イタリア野菜類の収穫がスタート	11
都内で今治産花木がドライ商品として販売開始	11
しまなみ農業の特産品を関西地域で紹介	12
高収益園地の土壌改良効果等を調査	12
搾りかすを利用した「オリーブ卵」を試食	13
■中予地方局 地域農業育成室	13
なす新規生産者の確保に向けて	13
新規ユーカーリ品種の試作出荷	14
麦の中間管理講習会を行う	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	15
さといもの栽培技術情報等を発信	15
中山栗の低樹高化に向けたせん定講習会を開催	15
砥部町の新しい特産品誕生	16
認定農業者がインボイスを学ぶ！！	16

■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	17
直売所出荷者に向けた有機栽培の推進	17
雑穀を使用した創作郷土料理を撮影	17
生活研究協議会が取り組む雑穀を使った郷土料理の伝承活動を支援	18
愛媛CATVを通じた「原木しいたけ」のPR	18
■中予地方局 産地戦略推進室	18
パクチーの冬季栽培の取組み	19
■南予地方局 地域農業育成室	19
アシストスーツによる軽労効果を実証	19
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	20
鬼北初!「愛媛果試第28号」の市場調査を実施	20
水田大規模経営体の意見交換会を実施	20
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	21
鳥獣害対策・河内晩柑の樹勢管理研修会を開催	21
新規就農者の確保に向けた関係機関との勉強会(第3回)を開催	21
■南予地方局 産地戦略推進室	22
道の駅みまで「媛かぐや」を販売	22
■八幡浜支局 地域農業育成室	22
運搬作業の労力軽減を目的に電動一輪車を管内に普及	22
「清見」の農薬登録(果皮障害防止)に向けた現地試験を実施	23
かんきつ類の病害虫診断における指導活動の高度化に向けた若手研修会を開催	23
県内農業関係機関へかんきつ地帯における集落営農の取組事例を紹介	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	24
農事組合法人の経営力強化を目指して	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	25
寒地系にんにく産地化に向けた意見交換会開催	25
高校生が水稻栽培の知識を深める	25
■八幡浜支局 産地戦略推進室	26
宮崎県フィンガーライム生産者との栽培技術情報交換	26
■農産園芸課 高度普及推進グループ	26
さといもの種芋供給体制確立に向けた野菜調査研究会を開催	26
「さくらひめ」の収益性向上に向けた花き調査研究会を開催	27

【月のトピックス5選】

標 題	農業法人が女性農業者の労働環境改善に取り組む		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年12月14日	場所	西条市氷見	
指導対象	アグフィールド（株）	連携機関		
普及指導内容	<p>○畑わさび栽培を経営するアグフィールド（株）は、農作業従事者の約8割を女性が占めることから、女性農業者の労働環境改善が経営改善の大きな課題となっていた。</p> <p>○当室では、女性農業者が安心して働くことができる環境整備に向け、女性専用トイレ及び女性専用休憩室兼更衣室を整備することを提案し、改善計画の作成を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○労働環境改善に向け、法人では役員と女性農業者が取組内容を検討し、「女性の就農環境改善緊急対策事業」（国補事業）を活用して、女性専用トイレ（2カ所）と休憩室兼更衣室を整備した（12月14日完成）。</p> <p>○今回の取組みを女性の就農環境改善のモデルとして、雇用拡大と女性農業者がもつ能力を発揮し活躍できる環境づくりを推進し、管内農家への波及を目指す。</p>			
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 25%; margin-right: 10px;"> <p>【女性の就農環境改善緊急対策事業】 女性が働きやすい環境整備支援と女性農業者のグループ活動支援を通じ、女性農業者の定着、農業人口の向上につながることを目的に実施。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>左：完成した施設の全景</p> <p>右：設置した女性専用トイレ</p> </div> </div>				

標 題	かんきつ S. マルチ実証ほ設置に向け現地検討会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年12月21日	場所	今治市大西、菊間	
指導対象	かんきつ生産者（5人）	連携機関	JA おちいまばり 農研機構	
普及指導内容	<p>○かんきつ生産者の高齢化等により、今後、平坦地における栽培が増加し、糖度向上に向けた対策が必要となることから、マルチ下に雨水等が浸み込むのを遮断するシールドイング・マルチ栽培（S. マルチ）の実証栽培を開始する。</p> <p>○実証ほは、「南柑 20 号」で大西町と菊間町に設置し、開発者である農研機構を招いて、生産者立会いの下、設置位置や設置方法について検討した。</p>			
結果と今後	<p>○S. マルチの設置は、農閑期で根の活性が低い1月に行い、農研機構から現地指導を受けながら、生産者が作業する。</p> <p>○JA と協力して実証ほの生育調査等を実施し、その結果を「はれひめ」「愛媛果試第 28 号」へも波及させていく予定である。</p>			







S. マルチ（農研機構 HP より引用）


引用元 https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/135247.html





ほ場の現地確認（写真左が大西町、写真右が菊間町）




標 題	自作装置でハウス内気温を適正管理		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年12月8日、22日	場所	東温市上村ほか	
指導対象	いちご生産者(81人)	連携機関	JA松山市、JAえひめ中央	
普及指導内容	<p>○いちご栽培ハウス内の適正な温度管理を低コストで行うため、センサーが正確に気温を測定出来るよう当室が自作した「通風式放射よけ装置」8基を生産者のハウス内に設置しているところ。</p> <p>○今般、設置した装置により気温を測定した結果、ハウス内の気温は生育適正温度よりも2～3℃低くなっていたことが判明、生産者に加温機等の設定温度の変更を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○適正なハウス内温度が確保され、いちごの生育が順調となった。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、いちごの生産性向上のため、環境制御等の技術指導に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%; margin-right: 10px;"> <p>【通風式放射よけ装置】 周囲からの反射光や輻射熱の影響も受けないよう放射よけ（塩ビ管）で覆い、ファンで通風する装置。正確な気温が測定できる。</p> </div> <div style="display: flex; gap: 10px;">   </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center; margin-right: 100px;">装置の作製</div> <div style="text-align: center;">装置の設置</div> </div>				



標 題	儲かる農業に向け新規就農者をサポート		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月12日～14日、26日	場所	宇和島市内現地	
指導対象	令和3年度就農者 10人 (局予算事業重点対象者)	連携機関	JAえひめ南、宇和島市、農業指導士、篤農家	
普及指導内容	<p>○地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」において、就農間もない農業者の定着を支援するため、儲かる農業推進チームによる巡回指導を行い、技術・農地・機械確保等、幅広い相談に対応している。</p> <p>○9月に実施した農業指導士、市、JA、普及機関による果樹生産者の巡回指導に続き、12月には地域の篤農家を交えて野菜生産者を訪問し、就農状況のヒアリングや園地の栽培管理状況を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○巡回では、新規就農者から農業指導士等に対して、「キウイフルーツの夏季せん定について知りたい」「温州みかんの枝吊りをしたので適当か見てほしい」など技術的な質問が多く出され、篤農家からは「労力を考えた作目構成を考えると良い」等のアドバイスがあったほか、「同じ地区でも若手の園地に行くことは少ないので、良い機会になった」との感想が聞かれた。</p> <p>○引き続き関係機関や地域の農家と連携して新規就農者をサポートし、儲かる農業の実践による定着を支援する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：農業指導士がキウイフルーツの夏季せん定について指導</p> <p>右：関係機関と篤農家による現地訪問</p> </div> </div>				



標 題	軽労働化に向けアシストスーツと電動農機具を体験		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和4年12月6日	場所	内子町五十崎自治センター	
指導対象	認定農業者、青年農業者、新規就農者、関係機関等（25人）	連携機関	大洲市・内子町・JA愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○作業の省力化による経営改善を目的に、アシストスーツと電動農機具について研修会を開催した。</p> <p>○様々なタイプの簡易アシストスーツや小型バッテリー式電動農機具について、指導班等から説明後、各自試着や作業体験を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は興味深く実際に身に付けたり動かしたりするなど、体感するいい機会となっていた。軽労働化への理解が深まるとともに、「今後の機械・器具導入にあたっての選択の幅が広がった」などと話していた。</p> <p>○今後、アシストスーツについては機種に応じて会員等に貸し出し、現場での省力化効果を体験していただくとともに、導入の参考にしていただく予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：アシストスーツについて説明</p> <p>右：電動農機具を体験</p> </div> </div>				



【えひめ農業 NOW】



標 題	認定農業者等が農政局と意見交換		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年12月13日		場所	西条市地域創生センター
指導対象	認定農業者、農業指導士、青年農業者、新規就農者等（25人）	連携機関	中国四国農政局愛媛支局、西条市、新居浜市、JA周桑、JAえひめ未来	
普及指導内容	<p>○西条地区認定農業者等連絡協議会が行う、地域農業振興を検討するリーダー研修会の開催を支援した。</p> <p>○当日は、中国四国農政局次長 及川仁氏から、食料・農業・農村基本法、みどりの食料システム戦略等の農業施策の最新情報に関する講演があり、その後、農政局と意見交換を行った。</p> <p>○農政局は、「肥料や燃油が高騰している中、農政局を活用して欲しい」「人・農地プランの法制化を行い、農地を守る人を支援対象にし、小規模農家にも目を向けた活動を今後は行う予定」と、生産者への支援体制等についてアピールした。</p> <p>○出席者からは、米政策、基盤整備、果実輸出時の残留農薬リスク、農産物の販売価格の低迷、就農準備資金の緩和等、日頃の考えや現場の実情を伝えた。</p>			
結果と今後	<p>○出席者は、農政局を身近に感じ、自分たちの疑問や考えが国政につながり、農業経営の強化と今後の地域農業の振興につながると希望を持つことができた。</p> <p>○当意見交換が青年農業者協議会にも波及しようとしており、年代を超えて地域農業を盛り上げようという機運が高まっている。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：中国四国農政局次長による講演</p> <p>右：農政局との意見交換</p> </div> </div>				



標 題	ふるさと小包「土のめぐみ・冬便」発送支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年12月23日		場所	西条市丹原町 農村環境改善センター
指導対象	西条市生活研究協議会丹原支部（14人）	連携機関	西条市	
普及指導内容	<p>○西条市生活研究協議会では夏と冬の年2回、会員が生産した農産物と加工品の詰め合わせを「土のめぐみ」として県内外に発送している。</p> <p>○当室では、発送にあわせて、品質表示や加工品製造に係る衛生指導、活動 PR パンフレットの作成支援を行った。</p> <p>○今回の注文数は259箱で、白菜や大根など旬の野菜と柿ようかん等12品目を詰め合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○会員からは「協力しながら作業をスムーズに行うことができた」との声があった。</p> <p>○今回から新たに2人の女性農業者が活動に加わり、今後も地域の食文化を普及・継承していく活動に力を入れていこうと話合った。</p> <p>○令和5年1月には「子ども食堂」と連携した「食文化普及講座」を計画している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 白菜の包装作業 箱詰め作業 冬便の内容 </div>				




標 題	女性農業者の育児と農作業をサポート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年9月～12月	場所	西条市丹原町	
指導対象	未来農ファミリー	連携機関		
普及指導内容	<p>○未来農ファミリー（代表：金光史氏、5人）は、「令和4年度媛の国一次産業女子活躍推進事業」を活用し、女性農業者の育児と農作業をサポートするため、託児スペースの改修及び託児と農作業サポート活動の環境整備を行った。</p> <p>○当室では、当組織と連携し託児と農作業サポートの体制整備を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○託児スペースは11月末に改修が終了し、それまで屋外で実施していた託児を屋内で開始した。12月末まで、託児15回、農作業サポート8回実施した。</p> <p>○利用した女性農業者からは、「農業は作業の遅れが売りに大きく影響するので、託児と農作業の両面でのサポートはありがたい」という声があった。</p> <p>○当組織では、女性農業者がやりがいをもち農業に従事できる体制が整備できるよう今後も事業に取り組んでいく事としている。</p> <p>○1月には、改修した託児スペースを活用して親子で参加する研修会を開催する予定。</p>			
<p>【令和4年度媛の国一次産業女子活躍推進事業】女性の活躍促進や社会参画に向けて、女性経営者の育成や地域グループの活動、女性が働きやすい環境づくり等の支援を目的として実施。</p>				<p>左：改修した託児スペース</p> <p>右：整備した場所で託児を実施</p>

標 題	SNSを活用した情報発信研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年11月7日、12月5日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	一次産業女子ネットワーク組織 たべとうみん（6人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○たべとうみんの新たな取組みを支援するため、「令和4年度媛の国一次産業女子活躍推進事業」を活用し、SNSを活用した情報発信研修会を開催した。</p> <p>○SNSのフォロワー約4.0万人をもつマーケティングディレクター鈴木雅也氏を講師に、SNSそれぞれの特徴を踏まえた情報発信の手法について実習を交えて研修を行った。</p>			
結果と今後	<p>○SNSごとの特徴を理解したうえで、発信したい内容により媒体を選ぶことや投稿の頻度、写真や動画を有効に活用することなどを学んだ。</p> <p>○自分たちが撮影した写真や動画の加工方法も学び、実際に記事を作成して投稿した。</p> <p>○研修会后、毎週発送する旬菜ボックスの情報も投稿するなど積極的にSNSを活用しており、今後、研修会の効果が期待できる。</p>			
<p>【令和4年度媛の国一次産業女子活躍推進事業】女性の活躍促進や社会参画に向けて、女性経営者の育成や地域グループの活動、女性が働きやすい環境づくり等の支援を目的として実施。</p>				<p>左：写真の加工方法などを指導</p> <p>右：実習で作成したInstagramの画面</p>



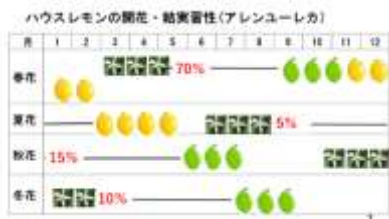
標 題	地域特産さといもを身近に～食文化を伝える～		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年12月8日	場所	四国中央市立寒川小学校	
指導対象	四国中央生活研究協議会（3人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○えひめ食農教育推進事業の一環として、寒川小学校3年生（41人）を対象に、地域特産のさといも「愛媛農試V2号」の食文化普及講座の開催を支援した。</p> <p>○当講座は「大すきふるさと寒川～寒川の農作物～」と題し、講師役の協議会員及び当班が「愛媛農試V2号」の特徴を紹介した後、調理（コロッケ、もち）を通じて児童が食材への感謝の心を育むとともに、地域特産農産物の利用促進を図った。</p>			
結果と今後	<p>○児童とともに参加した保護者（7人）からは「もちもちとして美味しい」「また作ってみたい」と好評で、地域食材や食事への関心が高まるとともに、協議会員も「地域で生産される野菜の味をもっと食卓へ提供したい」と意識の高揚が見られた。</p> <p>○当講座の取組は小学校のホームページで情報発信されており、当班は今後も食農教育の推進と地域特産農産物の利用拡大に向けた指導支援を積極的に実施する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>【えひめ食農教育推進事業】 地域の農産物を用いた体験活動や郷土料理づくり等を通じて、食文化の普及・継承と地域特産農産物の利用促進を図る県事業</p> </div> <div style="display: flex; gap: 10px;">   </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">講師の指導で熱心に調理する児童 食を通じて地域農産物を学ぶ</p>				

標 題	地産地消と食文化伝承の活動を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年11月30日、12月7日	場所	奥之院仙龍寺、道の駅霧の森 (四国中央市新宮町)	
指導対象	四国中央生活研究協議会（15人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○地域産物の消費拡大と生産振興に向けた地産地消の取組み方や地域食材の利用方法の習得を目的に現地研修会を2回開催した。</p> <p>○食料自給率の低下や、伝統的な食文化継承の機会が新型コロナの影響等で危ぶまれていることを情報提供し、今後の協議会活動においては、地産地消や食文化伝承に軸足を置いた活動展開を指導することで会員の意識啓発を行った。</p>			
結果と今後	<p>○協議会員は仙龍寺の地域食材を使った精進料理の提供や霧の森の抹茶点て講座などのグリーン・ツーリズムを通じて、楽しみながら食文化を学ぶとともに、地域食材への意識付けが高まり、地産地消への取組みの重要性を体感した。</p> <p>○今後も地域間交流活動の場を提案し、伝承技術の情報共有を図りながら、地域農水産物の利用体験を織り込んだ食文化の普及活動と地産地消の推進を継続支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>季節に合わせ地域食材を活かす精進料理</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>体感から地域食材や文化へ魅力を感じる</p> </div> </div>				

標 題	実需者ニーズに対応した花木の出荷を開始		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年12月12日	場所	西条市丹原地区花木栽培ほ場	
指導対象	JA周桑花木生産者（5人）	連携機関	JA周桑	
普及指導内容	<p>○「ビブルナム・ティナス」の出荷目ならし会を開催し、収穫する際のポイントや秀・優品基準について説明を行い、生産者の意識統一を図った。</p> <p>○出荷規格に関しては、11月に来県した東京大田花き市場及び中央花卉（仲卸業者）との意見交換結果を受けて細分化したところ。</p>			
結果と今後	○新たな出荷規格により12月14日から関東市場へのお荷を開始したところ、市場の評価は高く、今後、2月頃まで出荷が続く見込み。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：目ならし会で基準の確認</p> <p>右：収穫前のティナス蕾</p> </div> </div>				

標 題	今治地区魅力発信活動(媛かぐや編)を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年12月22日	場所	今治南高校別名農場および日高農場	
指導対象	今治南高校園芸クリエイト科(12人)	連携機関	今治南高校	
普及指導内容	<p>○高校生の就農意識の向上と今治地区の農業の魅力を発信することを目的に、さといも県オリジナル品種「媛かぐや」の収穫体験及び調理実習を企画・実施した。</p> <p>○収穫体験では、当室担当者が収穫方法を説明した後、生徒が手際良く収穫を行った。</p> <p>○調理実習では、シチューやポテトサラダなどを作り、調理の指導を行ったフードコーディネーターの近藤路子氏や今治市の徳永市長らとともに試食会を行い、「媛かぐや」の味を堪能した。</p>			
結果と今後	<p>○体験後、生徒からは「ホクホクして美味しかった」「将来はさといも農家になりたい」などの意見があった。</p> <p>○また、当日の様子はNHKや今治CATVで放送されることとなっており、積極的な広報により、地域農業の活性化や担い手の確保・育成につなげていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 収穫体験 調理実習 生産者へのインタビュー </div>				

標 題	サル対策にクラウドカメラでリモート監視		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年12月16日	場所	今治市朝倉高大寺地区	
指導対象	高大寺地区サル被害対策グループ (10人)	連携 機関	JA おちいまばり、 県農産園芸課 鳥獣害対策係	
普及指導 内容	<p>○当地区では、同室の指導により、8月から拡大するサル被害対策に大型捕獲おりを設置し、集落関係者が輪番制で餌付け作業（おりへの出入が自由にでき、おりの中の餌を食べられる状態）を実施している。</p> <p>○11月からクラウドカメラによりサルの出没や行動を遠隔監視していたところ、12月中旬からおり内部への侵入が複数頭確認されるようになったことから、捕獲を開始するための打合せを行った。</p>			
結果と今後	<p>○年明け以降、クラウドカメラを活用することで、同地区へのより迅速な情報提供・対策指導を行うこととしている。</p> <p>○捕獲作業（おり内部から外に脱出できる渡り棒の取り外し）は、情報提供を受けた同地区が行う予定である。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>日中のサル出没状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>夜間イノシシ出没</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>集落関係者による管理作業</p> </div> </div>				




標 題	夏季レモン生産技術の普及を目指して		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和4年12月23日	場所	現地実証ほ	
指導対象	ハウス栽培生産者（12人）	連携 機関	（株）いわぎ物産センター	
普及指導 内容	<p>○夏季レモンの生産拡大に向け、地方局予算「しまなみ産夏季レモン生産技術確立事業」により取り組んできた実証ほの調査結果を公開した。</p> <p>○当日は、ハウスレモン栽培における課題と対策について説明するとともに、夏季レモン生産誘導の趣旨の周知と技術解説を行った。</p>			
結果と今後	<p>○現状の施設条件での実証結果から、全収穫量の15～20%程度が、7月～9月の夏季に収穫が見込めることが分かった。</p> <p>○ハウス栽培は露地栽培に比べ生育が早く、受光体制、農薬付着の観点から整枝せん定面の改善の必要性が理解された。</p> <p>○ハウス栽培生産者に夏季収穫の注意点と栽培技術のポイント及び夏季レモンに取り組むメリットを周知することで夏季収穫の機運が高まった。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>実証試験結果の説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整枝せん定ポイントの意見交換</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>夏季レモン収穫目標の提示</p> </div> </div>				



標 題	業務用イタリア野菜類の収穫がスタート		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年12月6日	場所	今治市朝倉	
指導対象	—	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○飲食店等の実需者ニーズに応じた業務用野菜の産地化を目指し、これまで栽培事例がほとんどなかったイタリア野菜類の栽培実証を行っており、6日から、9月に定植したコールラビや黄色ズッキーニ等の収穫が始まった。</p> <p>○実証は、飲食店に食14材を販売している大型直売所「さいさいきて屋」から提案のあった14品目について、閉鎖型栽培システムや加温、無加温ハウスで行っている。</p>			
結果と今後	<p>○加温・無加温ハウスで行っている大型プランターを利用した養液栽培による実証では、各品目の生育日数や収穫量のほか、コスト削減のための自家採種や挿し苗での増殖方法が明らかになっている。</p> <p>○今後は、「さいさいきて屋」と生産物の試験販売に取り組み、飲食店等の要望等を調査しながら多品目が周年供給できる産地の育成を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>閉鎖型システムでの栽培実証</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>無加温ハウスでの栽培実証</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>黄色ズッキーニの加温栽培</p> </div> </div>				


標 題	都内で今治産花木がドライ商品として販売開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年12月1日	場所	東京都港区	
指導対象	—	連携機関	Tokyo Fantastic	
普及指導内容	<p>○今治産花木の取引拡大のため、都内生花店等と活用法を協議した結果、ドライフラワー商品の販売が都内でスタートした。</p> <p>○今治市が主産地となっている「ビブルナム・ティナス」等については、これまでドライフラワーとしての活用はほとんどなかったため、試験的に商品を制作してもらい、表参道で開催されたイベントで当室が制作した名刺型のPR広告を付け販売した。</p>			
結果と今後	<p>○商品の売り上げは上々であったことから、同商品は店舗でも販売されることになり、3月の開店記念イベントでは新たな商品の制作販売も予定されている。</p> <p>○今後、ドライフラワーを含む様々な活用法を県内外の生花店関係者等と引き続き協議する予定で、今治産花木を広く周知していくことで取引拡大を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>都内生花店での販売</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>花木を使ったドライフラワー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>制作した名刺型のPR広告</p> </div> </div>				

標 題	しまなみ農業の特産品を関西地域で紹介		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年12月15日～16日	場所	県大阪事務所、大阪府、京都市の飲食店等5店	
指導対象	オリーブ生産者、醸造用ぶどう、夏季レモンの生産者及び販売事業者	連携機関	大阪事務所、観光物産協会大阪支部	
普及指導内容	<p>○県観光物産協会大阪支部や関西の飲食店5店舗を訪問し、しまなみ地域で産地化を進めるオリーブの加工品や大三島のワイン、夏季レモン等の商品の評価に関する調査を行うとともに、取引拡大に向けた交渉を行った。</p> <p>○本活動は、地方局予算「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環で、商品力強化による販売拡大を目指すもの。</p>			
結果と今後	<p>○各事業者との交渉により、オリーブの塩漬け等について新たな商談がまとまるとともに、大阪事務所内のコーナーでも展示販売が始まった。</p> <p>○ストーリー性の高い商品への関心が高く、商品に興味を持ち産地見学を希望する事業者が多かったことから、今後は取引事業者の園地視察等を企画する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>京都市内飲食店での営業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大阪市内飲食店での営業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大阪市内飲食店での営業</p> </div> </div>				


標 題	高収益園地の土壌改良効果等を調査		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年12月16日、22日	場所	今治市朝倉上	
指導対象	「愛媛果試第28号」生産者（4人）	連携機関	-	
普及指導内容	<p>○資材高騰対策のモデル事例として、軒高の低い簡易な野菜用ハウスを利用しながらも、管内でも極めて高い収量と品質で「愛媛果試験第28号」を出荷している園地について、収穫が終わった16日に生産者等と根群や土壌の掘取調査を行った。</p> <p>○調査結果は、同じ水田転換園でハウスでの栽培を予定している生産者グループに提供し、低コストハウスの設計や土壌改良法について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○調査により、地下の不透水層の破壊や明渠の設置等により、根域が深くまで拡大していることや、排水性の向上により、細根が畝内全体に均一に分布し、樹勢を保つだけの根量が確保できていること等が確認できた。</p> <p>○今後、栽培予定園地において土壌構造の調査を行うとともに、資材メーカー等の協力を得ながら低コスト栽培技術を確立する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>土壌と根群の調査</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>畝全体に緻密に広がる細根</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>調査結果と提供した資料</p> </div> </div>				


標 題	搾りかすを利用した「オリーブ卵」を試食		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年12月27日	場所	県養鶏研究所	
指導対象	—	連携機関	県養鶏研究所	
普及指導内容	<p>○オリーブの産地拡大に伴い増加していたオリーブの搾りかすの有効利用方法について、当室が同研究所の鶏の飼料としての利用法を提案し、今年度、同研究所において飼料給与試験に取り組んでいる。</p> <p>○今回、オリーブの絞り粕を配合した飼料で生産された卵の試食会が27日、県養鶏研究所で開かれた。</p>			
結果と今後	<p>○これまでの結果では、絞り粕の配合割合を高めても摂取量は減少せず、当日試食した関係者の多くは卵の食味も良いと評価している。</p> <p>○当室は、搾りかすの乾燥調整方法等についても生産者と協議するとともに、来月市内にオープンするオリーブカフェでのオリーブ卵の利用法等についても事業者と協議しており、引き続きオリーブ産地の育成に係る取組を推進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>オリーブ搾りかす配合飼料</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>搾りかす配合飼料の試験区</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>オリーブ卵の試食会</p> </div> </div>				

標 題	なす新規生産者の確保に向けて		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年12月1日	場所	松山市農業指導センター	
指導対象	新規就農者（13人）	連携機関	松山市	
普及指導内容	<p>○担い手農家育成研修会において、なす栽培の「見える化」技術を紹介した。</p> <p>○pFメータを用いたかん水方法や、コンパクト硝酸イオンメーターによる追肥の施用時期の判断等について講習した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「勘に頼っていた作業が見える化できるため、簡単にできそうだ」「機器はどのくらいの価格か」など、多くの質問が出された。</p> <p>○次回は、2月になす天敵利用技術について講習を予定している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>熱心に受講する参加者</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「見える化」について説明</p> </div> </div>				



標 題	新規ユーカリ品種の試作出荷		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年10月26日～12月2日	場所	松山市堀江	
指導対象	ユーカリ生産者（1人・10a）	連携機関	JA えひめ中央 花き研究指導室	
普及指導内容	○令和4年5月より、松山市堀江地区にて新規ユーカリ4品種「パルブラ」「アップルボックス」「ポポラス」「グロブロス」を試作し、10月26日から初出荷を開始。 ○栽培方法が未確立のため、「ユーカリ・グニー」をはじめとした既存ユーカリ品種の栽培方法に準じて、ピンチや施肥管理等を指導。			
結果と今後	○いずれの品種も春定植で、11月頃の収穫が可能であることを確認した。 ○今後は、3～4月頃に台刈りを行い、2年目の生育や収量性について継続して調査を行う。			
				
<p>ユーカリ・グロブロス</p> <p>ユーカリ・パルブラ (左：1本の枝姿、右：10本1束)</p>				


標 題	麦の中間管理講習会を行う		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年12月21日	場所	東温市、松前町	
指導対象	はだか麦・小麦生産者（42人）他	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	○JA 松山市管内のはだか麦と小麦の生産者に対し、今作期における中間の栽培管理指導を行った。 ○はだか麦「ハルヒメボシ」と以前導入していた「マンネンボシ」の品種特性の違いを改めて説明し、「ハルヒメボシ」の特徴がいかに栽培方法と、今後の作業の詳細を説明した。昨年度栽培した「シロガネコムギ」は、目標収量を十分達成したため、本年は品質向上も含めた指導を行った。 ○肥料高騰に対応した栽培技術について、重点的に指導を行った。			
結果と今後	○現時点での麦類の生育状況は良好であるが、今後、雑草の発生が懸念されるため、対応策について指導を実施する。 ○栽培指導については随時行うほか、必要に応じてJAと連携し、穂肥講習会なども行う予定。			


標 題	さといもの栽培技術情報等を発信		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年12月2日	場所	IYO 夢みらい館	
指導対象	管内集落営農組織 (50人)	連携機関	農林水産研究所、伊予市、松前町 片倉コープアグリ (株)	
普及指導内容	<p>○さといもの生産技術の向上のため、さといも栽培技術研修会を開催した。</p> <p>○会では、今年度当班が実施してきた、さといも実証ほの生育・収量調査結果を報告するとともに、農水研担当研究員が県下各地の生育状況と今年の傾向について情報提供し、今後の技術対応等について指導した。</p> <p>○また、肥料高騰対策として、片倉コープアグリ (株) の大内四国営業所長が、ペースト肥料や局所施肥を活用したコスト削減方法について説明した。</p> <p>○更に、マイクロプラスチック対策について、農水研担当研究員が、様々な被覆肥料の紹介と、肥料溶出試験の結果を踏まえた今後の展開について説明した。</p> <p>○そのほか、当班からスクミリングガイ対策や野焼き時の注意点等の情報を提供した。</p>			
結果と今後	<p>○さといもの生育・収量調査等は次年度も継続して実施し、収量向上や栽培技術の安定化を目指す。</p> <p>○化学肥料等の資材高騰対策については、補助事業も積極的に活用し、農業経営におけるコスト低減につなげていく。</p>			
				
橋研究員からの情報提供				

標 題	中山栗の低樹高化に向けたせん定講習会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年12月2日、3日	場所	伊予市中山町	
指導対象	JA えひめ中央中山支部栗部会、中山町農業者協議会 71人	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○中山栗の生産量向上に向け、低樹高栽培技術の普及を図るため西予市城川町の西山良幸氏を招いてせん定講習会を4か所で開催した。</p> <p>○講習会は、当班が設置している高収益モデル園において行い、樹勢改善や大玉栗生産の経過を確認してもらいながら、主枝のカットバックによる低樹高化を推進した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、主枝の切り下げや側枝の整理方法、良い結果母枝の残し方など低樹高栽培に対する理解が深まった。</p> <p>○せん定請負組織と連携しながら、低樹高栽培技術の普及拡大を目指す。</p>			
				
<p>左：多くの女性農業者が参加した 右：低樹高に改善した樹形</p>				



標 題	砥部町の新しい特産品誕生		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年12月3日	場所	砥部町高市	
指導対象	砥部町生活研究グループ「ひろたふきのとう」(6人)	連携機関	青空食堂(有) ヴォルカニックカンパニー、(株) NINO、砥部町	
普及指導内容	<p>○砥部町広田地区で起業活動を行っている「ひろたふきのとう」のメンバー4人が、松山市の青空食堂と連携して新しい商品づくりを進めているため、当班は、6次化に関する補助事業の活用や地域の特産品とのコラボ商品の開発を支援している。</p> <p>○今回は、商品化に際した高市地区の神社でのパンフレット作りの写真撮影会に併せ、関係機関や地域住民へ紹介を兼ねた試食会の開催を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○商品は、それぞれのこだわりの一品「よもぎもち」「蒸しパン」「赤飯」「裸麦菓子」を詰め合わせた菓子折りで、演出は(株) NINOが協力し、プロのカメラマンが撮影。これまでの産直市商品と異なり、一流の和菓子店と同じ素材を使って高級品仕様に仕上げられており、今後は、任意組織「広田生活研究所」として、松山市内の「三越」等で販売することとしている。</p> <p>○当日試食会に招かれた地域の高齢者や山村留学の児童たちからは「とてもおいしい」と好評で、砥部町も新しい特産品の誕生に期待を寄せている。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>出来上がった商品</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>プロのカメラマンによる撮影風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>試食会で挨拶する向井代表 (写真右奥)</p> </div> </div>				



標 題	認定農業者がインボイスを学ぶ！！		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年12月15日	場所	ウェルピア伊予	
指導対象	伊予地区農業経営者連合協議会 伊予地区家族経営協定締結協議会 あいネットワーク 32人	連携機関	伊予市、松前町、砥部町	
普及指導内容	<p>○農業者がインボイス制度を的確に理解し対応するため、3組織が連携して取り組む、「伊予地区農業合同研修会」の開催を支援した。</p> <p>○会では松山市の和泉会計事務所長 和泉真紀夫氏が、インボイス制度導入に依る農業者への影響を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○質疑では、任意団体から発行される領収書で仕入税額控除が出来るかどうかなど具体的な質問が出され出席者の関心は高かった。</p> <p>○免税農家は、課税農家になるかどうかの慎重な検討が必要であり、各組織に対して新たな情報が入れば随時提供していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：和泉講師の講義</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：農業者の質問</p> </div> </div>				



標 題	直売所出荷者に向けた有機栽培の推進		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年12月12日、13日	場所	久万高原町産業文化会館 美川村農村環境改善センター	
指導対象	直売所出荷者（37人）	連携機関	久万高原町、伊予農産株式会社	
普及指導内容	<p>○道の駅（天空の郷さんさん、みかわ）出荷者を対象に、有機農業の理解促進を図るため、有機農業講座を開催した。</p> <p>○当班から農薬削減に関する資材の実証結果について情報提供したほか、伊予農産有限会社からダイコンをはじめとした春野菜の栽培・病虫害防除について減農薬・減化学肥料の観点から栽培方法について説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、病虫害対策や土づくり等についての活発な質問があるなど、有機農産物生産への関心は高い。</p> <p>○今後も町と連携し、高齢化による出荷量減少に対応するため、高齢者にも作りやすい品目の生産指導を行うとともに有機栽培による安全・安心な農産物の生産出荷を支援する。</p>			
				
熱心に講義を受ける生産者				



標 題	雑穀を使用した創作郷土料理を撮影		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年12月12日	場所	久万高原町中央公民館	
指導対象	久万高原町生活研究協議会（9人）	連携機関	久万高原町、愛媛CATV	
普及指導内容	<p>○雑穀の生産振興による久万高原町の活性化の一環として、郷土料理の技の継承と、動画のネット配信による雑穀のPRのため、地とうきびの粉を使用した「はなこねり」と、たかきびの粉を使用した「たかきびの団子汁」の調理動画撮影を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○雑穀を使用した郷土料理（はなこねり、たかきびの団子汁、雑穀餅）の調理動画については、今後YouTube等のネット配信に向けた活動の支援に取り組む。</p> <p>○管内の保育園・小学校の保護者を対象に、地域に伝わる郷土料理「はなこねり」と「たかきびの団子汁」の調理講座を開催し、技の継承につなげる。</p>			
				
映像会社による郷土料理の撮影				



標 題	生活研究協議会が取り組む雑穀を使った郷土料理の伝承活動を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年12月16日	場所	久万高原町役場面河支所	
指導対象	久万高原町生活研究協議会面河支部	連携機関	久万高原町 久万高原町生活研究協議会	
普及指導内容	<p>○食文化の継承活動の一環として、生活研究協議会が取り組む「えひめ食文化普及講座」の開催を支援し、地域固有の雑穀を使った郷土料理の普及を図った。</p> <p>○今回は、面河支部が面河小学校児童及び教職員等 20 人を対象に実施した、雑穀ごはんや地元食材を使った豚汁による郷土料理の紹介活動を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○児童らは「初めて雑穀御飯を食べたがとてもおいしい。家でも作って欲しい」等好評であった。</p> <p>○今後も、管内での雑穀を使った郷土料理の伝承活動を支援する。</p>			
				<p>左：順番に雑穀ご飯を盛る児童 右：使用した雑穀6種</p>



標 題	愛媛 CATV を通じた「原木しいたけ」の PR		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年12月1日	場所	久万高原町露峰	
指導対象	原木しいたけ生産者（1人）	連携機関	愛媛 CATV、久万高原町	
普及指導内容	<p>○愛媛 CATV と連携して毎月放送している5分間番組「キラキラ農業！大好きえひめ」で、12月に紹介する「原木しいたけ」の撮影を実施。</p> <p>○原木しいたけを栽培するに至った経緯や、なぜ久万高原町で原木しいたけが栽培されているのかを生産者から聞き取った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は「いつまでもこだわりを持ってしいたけ栽培を続けていきたい」と意欲的。</p> <p>○野菜が有名な久万高原町で「原木しいたけ」を紹介することで、久万の新たな魅力や自然を PR できた。</p> <p>○久万高原町ならではの特産品について、CATV と協力しながら引き続き PR 活動に取り組み、地域の活性化につなげる。</p>			
				<p>左：現地ほ場で撮影 右：原木しいたけ</p>


標 題	パクチーの冬季栽培の取組み		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年12月23日、28日	場所	松山市河中、難波	
指導対象	パクチー新規生産者（2人・3a）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○パクチーの冬季栽培に取り組む新規生産者に対し防寒対策指導を行った。</p> <p>○生産者らは9月から栽培を始め、1作目収穫後（10月中旬～11月中旬収穫）の畝をそのまま利用し10月下旬以降に2作目の播種を行い栽培しているが、降霜や凍結に弱いため、不織布資材でのトンネル被覆について実践指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は手分けをしてトンネル支柱を設置し、不織布シートを展張・被覆した後、マルチ止めと紐掛けで固定した。</p> <p>○収穫時期は、春～秋の中～高温期では播種後40～50日となるが、冬期は栽培地の気温にもよるが、播種後3か月以上かかるため2月以降となる見込み。</p> <p>○1作目の収穫量が想定より多く、生産意欲も高まっており、引き続き、生育状況等の確認等をしながら指導を続ける。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>不織布トンネル設置状況（松山市河中）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>（松山市難波）</p> </div> </div>				


標 題	アシストスーツによる軽労効果を実証		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年11月14日～12月27日	場所	宇和島市津島、奥南地区ほか	
指導対象	かんきつ生産者	連携機関	宇和島市	
普及指導内容	<p>○かんきつ栽培における収穫期の作業負担を軽減するため、アシストスーツを活用した軽労化の実証に取り組んでいる。</p> <p>○調査は、立ち仕事での選果・運搬作業が長時間にわたることから、軽量で動きやすく、比較的安価な機種を選定し、40～60代の生産者4人に一定期間貸し出しを行った後、長時間の装着に伴う痛みや着脱性、疲労軽減効果等について聞き取りを行った。</p>			
結果と今後	<p>○今回使用したアシストスーツは、素材がメッシュでできており、軽量で比較的長時間の装着に適していると思われたが、生産者によっては長時間の装着による痛みや着脱性、価格面などで改善すべき点があるとの意見も出された。</p> <p>○一方、年代別では、年齢が高いほどアシストスーツの効果を実感する声が大きく、今後、一定の需要が見込まれることから、今回の実証結果をふまえ、改善すべき点などをメーカーに提案するとともに、アシストスーツを始めとした各種スマート機器を管内に普及していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：聞き取り調査</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：供試したアシストスーツ</p> </div> </div>				


標 題	鬼北初!「愛媛果試第 28 号」の市場調査を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和 4 年 12 月 9 日～10 日	場所	鬼北農業指導班、大阪市場	
指導対象	管内果樹生産者	連携機関	果樹研究センター、みかん研究所	
普及指導内容	<p>○地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」の一環として、近年の地球温暖化を逆手にとり、県内では比較的冷涼な鬼北地域への「愛媛果試第 28 号」の導入に向けた栽培実証に取り組んでいる。</p> <p>○今般、大阪市中央卸売市場において、卸業者及び仲卸業者に鬼北産「愛媛果試第 28 号」の果実を見てもらい、試食を行った上で評価の聞き取りを実施した。</p> <p>○業者間で意見のばらつきはあったが、果実品質、外観とも優れているという評価があり、懸念していた果皮の厚さへの意見は聞かれなかった。</p>			
結果と今後	○次年度も継続して栽培実証に取り組み、果実品質等の調査を通して同地域における適応性の検証を行い、導入につなげることとしている。			
				<p>左：大阪へ郵送した果実</p> <p>右：卸・仲卸業者への評価聞き取り</p>




標 題	水田大規模経営体の意見交換会を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和 4 年 12 月 5 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	鬼北地域水稲農家	連携機関	鬼北町、松野町	
普及指導内容	<p>○「水田農業生産力強化支援事業」の一環として、水田大規模農家と関係機関が集まり、鬼北地域における将来の水田利用調整について意見を交換した。</p> <p>○愛媛大学大学院農学研究科 椿真一准教授による「稲作・水田農業の現状と食」の講演後、当班から自動給水装置を用いた水管理システムの実証結果を報告するとともに、「ひめの凜」の食味調査を行った。</p>			
結果と今後	<p>○食味アンケートでは、参加者から多くの高評価をいただき、特に食味と外観について評価が高かった。</p> <p>○意見交換では、畜産農家との飼料作物のマッチングや水路整備のための事業導入にかかる地区の合意形成の現状等が話題となり、地域の水田利用について問題点を共有する機会となった。</p> <p>○引き続き、大規模経営体の水田利用について、地域の農家間の調整や新規品目導入の支援等を関係機関と連携し推進する。</p>			
				<p>左：稲作・水田農業の現状についての講義</p> <p>右：水管理システムの情報提供</p>




標 題	鳥獣害対策・河内晩柑の樹勢管理研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年12月6日	場所	愛南町庁舎内会議室	
指導対象	愛南地区青年農業者協議会	連携機関	愛南町	
普及指導内容	<p>○今年度の普及活動の成果として、鳥獣害防止対策のポイントや河内晩柑の樹勢管理方法について講習した。</p> <p>○鳥獣害対策については、侵入防止柵付近で撮影した動画を上映し、単に柵を設置するだけでなく、補強により強度を高めることや、柵の内部に侵入した害獣の捕獲も併せて行うことを説明した。</p> <p>○河内晩柑については、自根が発生すると樹勢が強くなりすぎることを説明した上で、主幹への傷入れにより結実率が向上することや夏秋梢の発生が抑えられたことなど、今年度の実証結果を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○同協議会では、次年度、鳥獣害対策をテーマにしたプロジェクト活動を計画。</p> <p>○河内晩柑の自根対策については、次年度も継続調査を行い、収量や品質等の結果を改めて報告する予定。</p>			
				<p>左：鳥獣害対策の説明 右：会員間の意見交換</p>

標 題	新規就農者の確保に向けた関係機関との勉強会（第3回）を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年12月21日	場所	JA えひめ南 南宇和営農センター	
指導対象	愛南地区農業関係機関	連携機関	愛南町、JA えひめ南、産地戦略推進室	
普及指導内容	<p>○11月に実施した、JA えひめ中央 新規就農研修センターへの視察研修結果をもとに、管内における新規就農者の確保対策について意見交換会を開催した。</p> <p>○視察先 JA では、耕作放棄地の再生や「紅まどんな」のビニールハウスの建設体験、地域における栽培講習会への参加などができる研修制度を整えており、農地や農業技術のノウハウがない就農希望者でもスムーズな就農につながっていることを説明。</p> <p>○出席者からは、JA えひめ南の研修制度について、「日本一の河内晩柑産地である強みをもっと前面に出して研修生を募集してはどうか」「耕作放棄地の再生を行い、就農用の園地を確保してはどうか」等の前向きな意見が出された。</p>			
結果と今後	<p>○今後、管内の生産・出荷団体等から、各組織の“強み”について把握を行い、就農希望者にとって魅力のある研修制度にするための方策を検討することになっている。</p>			
 <p>新規就農者確保育成にかかる勉強会</p>				


標 題	道の駅みまで「媛かぐや」を販売		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年12月28日	場所	道の駅みま	
指導対象	産直市出荷農家（7戸）	連携機関	道の駅みま 生活研究グループ	
普及指導内容	<p>○今般、新規品目導入で産直市活性化を図る第1弾「媛かぐや」の初出荷を支援した。</p> <p>○やや小ぶりの「媛かぐや」に、かぐや姫のイメージとなる和紙を巻いた姿で販売。</p> <p>○今回、当道の駅に特別販売スペースを設置、POPによる特長説明や生活研究グループ考案のレシピをあわせて紹介するなど、販売促進を図った。</p>			
結果と今後	<p>○「媛かぐや」は、他商品と差別化したこだわり農産物として販売しており、1月にはその第2弾として「あまおとめ」の販売を実施予定</p> <p>○継続的な直売用新品目導入と売り場での特別感を演出しながら、出荷者の生産意欲向上と消費者への魅力アップを図り、出荷量の増加・来客者増加の好循環につなげる。</p>			
				
		和紙でデコレーション	特長やレシピを紹介	レシピ動画撮影



標 題	運搬作業の労力軽減を目的に電動一輪車を管内に普及		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年12月8日、14日	場所	八幡浜市双岩・真穴他	
指導対象	かんきつ農家（6戸）	連携機関		
普及指導内容	<p>○かんきつ運搬作業の労力軽減を図るため、今年度、研修会等で「電動一輪車」の実証や軽労働化の事例を紹介し、管内15戸の農家が補助事業等を活用して導入している。</p> <p>○今般、電動一輪車の普及状況や労働力軽減効果を把握するため、使用感について聞き取りを実施。併せて、アルバイトに作業従事の感想や今後の要望等の聞き取りを行った。</p>			
結果と今後	<p>○電動一輪車を導入した農家は、「持ち運びが楽で、段差のある園地でも簡単に移動できた」「運搬が楽になった」など、労力軽減効果を実感していた。</p> <p>○今後、労働力軽減に向け、電動一輪車を含めた工夫事例集を実践者の声をもとに取りまとめ、農家はもとより、アルバイト等も安心して働ける環境づくりを支援していく。</p>			
				
電動一輪車をフル活用する農家				



標 題	「清見」の農薬登録(果皮障害防止)に向けた現地試験を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年12月15日	場所	伊方町三崎地区	
指導対象		連携機関	JAにしうわ、みかん研究所	
普及指導内容	<p>○「清見」は温暖化により、果皮障害の発生が益々増加することが懸念されており、既存技術に比べて効果の高い新技術の開発が求められている。</p> <p>○ジベレリンは、登録のある他のかんきつ品種においては果皮障害を軽減するが、「清見」に対する登録がなく、現場では使用できない。</p> <p>○そこで登録に向け、昨年度に引き続き、「清見」への効果や薬害の有無をJAと連携し、研究機関と共同で試験を行い、昨年、効果が認められた散布条件に基づき、現地ほ場でジベレリン散布を実施。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、収穫前にその効果及び実用性について、研究機関とともに検討していく。</p> <p>○今年度も効果が確認されると、最短で再来年度より実用が可能となる。</p>			
				
	「清見」へのジベレリン散布	腐敗の原因となる果皮障害	左写真の点線部分を拡大	



標 題	かんきつ類の病害虫診断における指導活動の高度化に向けた若手研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 南予地方局農業振興課
年月日	令和4年12月16日	場所	八幡浜支局	
指導対象	南予地域の若手農業職員(21人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○近年、温暖化の影響もあり、JAや生産者から、今まで見られなかった症状の病害虫被害に関する問い合わせが増えている。</p> <p>○現場対応力の向上に向け、植物防疫への従事経験がある職員を講師とし、主要病害虫の診断能力及び指導力向上を図ることを目的とした研修会を開催した。</p> <p>○一般的な事象だけでなく、地域ごとの防除方法の違いや南予地域で問題となる病害虫及びその被害についても学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「実技研修を通し、同定のポイントを理解することができた」「自分が管轄する地域に応じた適切な指導ができることを目標としたい」との声があった。</p> <p>○研修で得た知識・経験・考え方を基に、各担当地域で適切な防除指導に努める。</p>			
				
	主要病害虫の概論を聴講	スリップスの予察手法を学ぶ	実体顕微鏡による同定	


標 題	県内農業関係機関へかんきつ地帯における集落営農の取組事例を紹介		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年12月22日	場所	JA 全農えひめ	
指導対象	県内 JA・県・市町関係者（41人）	連携機関	担い手サポートセンター、JA グループ愛媛、	
普及指導内容	<p>○県内の集落営農の組織化や法人化を検討している農業関係機関に対し、農業経営基盤強化研修会において、県内初となるかんきつ地帯の集落で設立した農事組合法人「笑柑園ナカウラ」の取組みを説明。</p> <p>○法人設立の背景と経緯のほか、当室が行っている経営力強化のための研修会や基盤整備に向けた先進地事例視察、収益性で魅力あるモデル園地づくり等の支援や活用した補助事業について紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「法人管理園の契約形態はどうなっているのか」「本取組内容を荒廃農地対策に活かしたい」など、高齢化により同様な課題に直面している地域からの意見があった。</p> <p>○今後も同法人の経営安定に向け支援するとともに、管内はもとより県内の産地維持モデルとして育成し、他地域への波及に努める。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">県内 JA・県・市町関係者を対象とした研修会で事例紹介</p>				



標 題	農事組合法人の経営力強化を目指して		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和4年11月28日	場所	大洲市野佐来地区	
指導対象	農事組合法人やさらい理事（3人）	連携機関	（公財）えひめ農林漁業振興機構	
普及指導内容	<p>○農業経営者総合サポート事業を活用して、農業法人の経営力強化を図ることを目的に、消費税のインボイス制度に関する研修会を開催した。</p> <p>○当地区では農地整備事業による基盤整備が進められており、インボイス制度導入による法人経営の影響や今後の具体的な対応について、講師である税理士からアドバイスを受けながら将来の経営戦略を検討した。</p>			
結果と今後	<p>○基盤整備が終了するまでは、JA等に販売を委託する農協特例を活用することや、今後は乾燥施設の導入も見込まれることから、資産取得を考慮した課税制度を選択することとした。</p> <p>○今後も法人の安定した経営を目指し、基盤整備後を見据えた機械化体系の検討や経営力向上に向け支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;">  <div style="text-align: right;"> <p>コンサルタント（税理士）による研修</p> </div> </div>				

標 題	寒地系にんにく産地化に向けた意見交換会開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年12月6日	場所	大野ヶ原集会所	
指導対象	大野ヶ原にんにく組合員（7人）	連携機関	西予市、(株) 祐	
普及指導内容	<p>○大野ヶ原における寒地系にんにくの産地化を支援するため、「大野ヶ原にんにく組合意見交換会」を開催。組合活動を報告するとともに、今後の活動方針等を協議した。</p> <p>○会では、11月に実施した青森県での先進地事例調査の報告、にんにくの生育状況の共有、今後の管理作業について指導。</p> <p>○令和5年度に導入予定の収穫用機械に係る補助事業について説明し、活用について意見を取りまとめた。</p>			
結果と今後	<p>○協議の結果、にんにく収穫を梅雨前に実施することと、施肥管理や病害虫防除等の植え付け以降の栽培管理について意識統一が図られた。</p> <p>○今後も、高品質安定生産を図るため、定期的に協議を行い、安定生産に向けた栽培管理技術の最適化を目指す。</p>			
				<p>左：組合員間の活発な意見交換 右：先進地事例調査（青森県）</p>

標 題	高校生が水稻栽培の知識を深める		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年12月16日	場所	宇和高等学校	
指導対象	宇和高校生徒（12人）	連携機関	西予市水稻防除協議会	
普及指導内容	<p>○宇和高等学校に設置している水稻肥料試験ほ場で、収穫物の収量・品質調査方法の研修会を開催。</p> <p>○地元高校生が地域農業の担い手や指導者として活躍できるよう、直接技術指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生徒たちは、定期的な生育調査や調査用サンプルの調整を行うことで、課題研究の計画策定、調査成績とりまとめを行うための知識を身につけた。</p> <p>○次年度以降も、基本的な調査活動を指導するとともに、農業に対する理解を深め、担い手育成に努める。</p>			
				<p>左：脱穀した粳を計量 右：調査結果を検討</p>

標 題	宮崎県フィンガーライム生産者との栽培技術情報交換		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和4年12月2日	場所	八幡浜市	
指導対象	フィンガーライム産地化推進協議会	連携機関		
普及指導内容	<p>○宮崎県門川町の依頼を受け、フィンガーライム生産振興の情報交換を当協議会員ほ場で実施した。</p> <p>○門川町は、町おこしの特産品（ふるさと納税返礼品）としてフィンガーライム栽培に取り組んでおり、昨年12月に当室が先方を視察したことで今回の開催が実現した。</p>			
結果と今後	<p>○双方の栽培面積は同程度で、栽培管理や販売上の課題も共通することが多く、熱心な意見交換の場となった。</p> <p>○今後も交流を継続したい等の要望もあり、引き続き情報共有を行うことで当協議会員の栽培技術の向上を目指す。</p>			
 		<p>左：取組状況の情報共有 右：栽培管理の意見交換</p>		

標 題	さといもの種芋供給体制確立に向けた野菜調査研究会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和4年12月5日	場所	オンライン会議	
指導対象		連携機関	JAグループ、各普及拠点、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○全県的にさといもの生産拡大が進み、優良種芋の安定供給体制の確立がますます重要となっているため、各産地の生産状況や種芋生産実証の取組みについて情報共有するとともに、今後の栽培管理及び種芋生産における注意点や対策を協議した。</p>			
結果と今後	<p>○通常の栽培管理については、夏季の高温少雨対策のため水源を確保しやすいほ場を計画的に選定することやマニュアルに基づく体系的防除の徹底が重要であることを共有できた。</p> <p>○種芋確保では、増殖用ほ場の確保、定期的な種芋更新、種苗法に基づく適切な増殖技術の普及を基本に、各産地における課題を整理したうえで、県全体で種芋供給体制を検討する必要があることを説明し、意識統一を図った。</p> <p>○今後も関係機関一体で情報共有しつつ、さといもの生産拡大に向けた種芋供給体制整備を支援していく。</p>			
		<p>Web 会議による情報共有</p>		

標 題	「さくらひめ」の収益性向上に向けた花き調査研究会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和4年12月8日	場所	県農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象		連携機関	各普及拠点、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○近年、「さくらひめ」は定植時期の高温で活着不良が多発しているほか、燃油高騰で厳寒期の加温が充分にできず、生育ステージが遅延することで収益性の低下が課題となっており、改善に向けた栽培管理技術を検討するため、令和3年産の生産状況を情報共有し、今後の課題及び生産対策を協議した。</p> <p>○また、花き研究指導室で実施中の「さくらひめ」密植栽培試験の栽培状況や花木有望系統現地試験の各品種の特性等についてはほ場研修を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○定植時期は活着率向上を図るため寒冷紗や散水による地温低下を徹底するとともに、2番花の抽苔を早めるため1番花の採花期間を目標3週間程度とし、7～8割採花した時点でかん水し生育を促進させる必要があることを報告した。</p> <p>○今後も関係機関と連携し「さくらひめ」の収益性に係る課題解決に向けた対策を検討するとともに、栽培技術指導に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">「さくらひめ」密植栽培試験(左)及び花木有望系統試験(右)のほ場研修</p>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543